

新しい

「心肺蘇生2010」のポイント

- 1 心肺蘇生は成人、小児、乳児ともに同じ手順で行います。
- 2 反応がなければ、まず 119 番通報と AED を依頼します。
- 3 訓練を受けていない救助者は、119 番通報をしてつながった通信指令員の指示を仰ぎます。
- 4 反応がなく、呼吸をしていなければ心停止と判断し、救助者は、ただちに胸骨圧迫から心肺蘇生を開始します。
- 5 救助者が訓練を受けていなくても、心停止の傷病者には胸骨圧迫を実施します。
- 6 胸骨圧迫と人工呼吸は 30: 2 の比で行います。
- 7 胸骨圧迫は、「強く（少なくとも5cmの深さで）」「速く（少なくとも 100 回/分）のテンポで」「絶え間なく（中断を最小限にして）」行い、血液を心臓に戻しやすくするため、押した後は力を抜きます。
- 8 小児に対する胸骨圧迫の深さの目安は、胸の厚さの約 1 / 3 です。
- 9 子どもの傷病者には、できる限り人工呼吸も行います。準備ができ次第、2 回の人工呼吸を胸骨圧迫に加えます。
- 10 小学生以上には成人用の AED パッドを使用します。

一次救命処置の手順

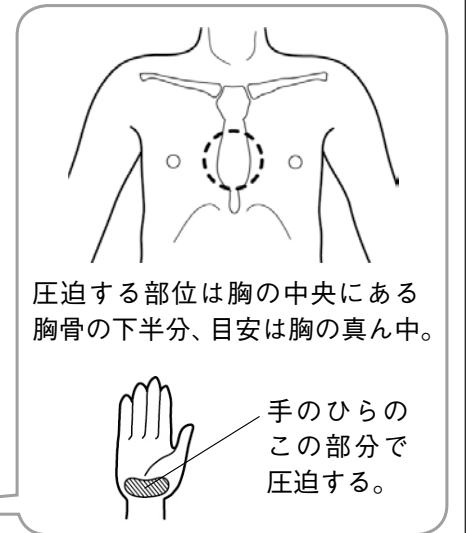
倒れている人を発見 肩をたたき大声をかけ、返事や身体の動きを見る。

反応なし 大声で叫び、応援を呼ぶ。119番通報とAEDを依頼する。

呼吸なし → 呼吸を見る → 呼吸あり → 気道確保をして呼吸の観察を行う。

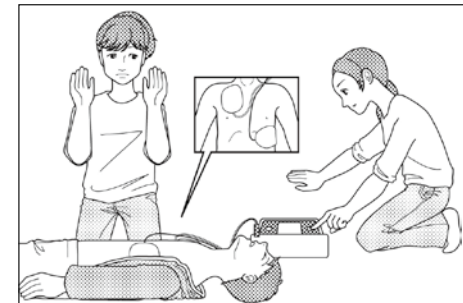
心肺蘇生

「強く（少なくとも5cmの深さで）」
「速く（少なくとも100回/分）」
「絶え間なく（中断を最小限にします）」



人工呼吸ができる場合は30：2で胸骨圧迫に人工呼吸を加える。
人工呼吸ができないか、ためられる場合は胸骨圧迫のみを行う。

AEDが到着したら



AEDを傷病者の頭の近くに置き、電源を入れて音声の指示に従います。傷病者に誰も触れていないことを確認してから「ショックボタンを押します」。

AEDによる心電図解析・安全確認

電気ショックは必要か？

必要あり
ショック1回

ショックボタンを押した後ただちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開する

必要なし

ただちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開する

救急隊に引き継ぐまで、あるいは傷病者に普段通りの呼吸や目的のある仕草が認められるまで心肺蘇生を行います。